

太陽の塔・内部見学会の活動記録



担当 1班

日時：平成30年12月21日(金) 午前10時30分～11時30分

場所：万博記念公園内

参加者：84名

参加費：万博記念公園200円+太陽の塔560円＝合計760円の内400円を個人負担

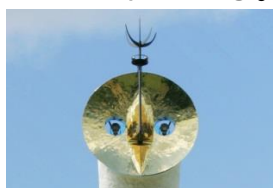
行程：9:30、万博記念公園入場→太陽の塔をバックに集合写真→10:30、16人のグループで太陽の塔内部に入場→約30分で退場→11:30解散→ワシントンホテルへ各自移動

概要 太陽の塔は、芸術家の岡本太郎が制作した芸術作品であり建造物である。1970年に吹田市で開催された日本万国博覧会のテーマ館の一部として建造され、万博終了後も引き続き万博記念公園に残された。

高さ70mの塔で、塔の内部は「生命の樹」と呼ばれる生物の進化というテーマに沿った展示物が置かれており、万博後非公開とされたが、何度かの限定公開を経て2018年3月19日に再び公開された。これに合わせて万博開催当時、テーマ館地下展示「いのり」に設置されていたが、閉幕後行方不明となっていた「地底の太陽」が復元された。

外観(4つの顔)について

「太陽の塔」は、頂部の「黄金の顔」、正面の「太陽の顔」、背面の「黒い太陽」の3つの顔を持ち、地下展示には「地底の太陽」といわれる顔も展示されている。



黄金の顔



太陽の顔



黒い太陽



地底の太陽

生命の樹(せいめいのき)

太陽の塔の内部の展示空間には、鉄鋼製で造られた高さ約41メートルの「生命の樹」があり、樹の幹や枝には大小さまざまな292体の生物模型群が取り付けられ、アメーバーなどの原生生物からハ虫類、恐竜、そして人類に至るまでの生命の進化の過程をあらわしていた。



生命の樹

編集後記

1970年に日本万国博覧会のテーマ館の一部として岡本太郎が作り上げた「太陽の塔」が、今年ついに息を吹き返した。太郎が問いかけたものの根源とは？塔が内包するものとは？その構想段階から完成までを網羅。音響など多彩なメディアを駆使し、岡本太郎の感性を大きなスケールで体感することができた。